

< 議案について >

中西 大輔議員 (すずか倶楽部)

議案第63号、議案第66号に反対 その他議案は賛成

反対議案について、公務員給与の改定は全否定しないが、将来課題や政策課題の考慮、市民要望実現の財源確保が先と考える。平成29年度の独自財源は約23億円、10年前に比べ半減している。人件費は経常的経費であり、独自財源の減少で財政の余裕を縮小させ、政

策の選択肢を狭める。二役の財政運営に疑問がある。将来世代に向けた視点から考えて反対する。

賛成議案について、以下の意見を述べる。

第2療育センターの設置は必要だが、何年運用するのか説明がない状況は問題である。小中学校の光熱水費の増額から、予算計上や運用のあり方など検討が必要で、学校校舎の断熱や遮光、通風、網戸設置なども考えるべきである。

池上 茂樹議員 (公明党)

全議案に賛成

幼稚園費の空調設備整備費2,476万3,000円は、市立幼稚園9園で21の保育室に空調機を設置するためのもので、9月定例議会の討論でも早期の空調機設置について訴え、今定例議会の補正予算に盛り込まれたことは、早期の対応であり評価する。

次に、議案第64号 鈴鹿市手話言語条例の制定について、手話が言語の1つであるとの理解が深まり、広がることは大変喜ばしく思う。今後、手話を言語として市民に周知徹底するために、広報などに日常で使う簡単な手話を動画で解説できるようQRコードなどを掲載し、手話通訳の育成、拡充のための施策に取り組むことを求め賛成する。

今井 俊郎議員 (大志の会)

全議案に賛成

議案第63号、議案第66号について、以下の意見を述べる。

山積する政策課題を解決するための財源確保が求められており、今回の職員給与の引き上げにはいささか危機感のなさを感じる。固定資産税の償却資産を財源に充てるとのことだが、企業からの血税であり、本来は行政運

営への課題解決に使われるべきで、当初予算要求でカットされた事業に対して、復活予算として市民に還元されるべきである。

給与算定には人事考課制度を取り入れ、頑張っている職員を評価し、給与に反映することが、職員の業務に対するモチベーションを上げていくものと考え。人件費削減のためにおいても、給料、時間外勤務手当、地域手当などを精査することも求める。

森川 ヤスエ議員 (日本共産党)

全議案に賛成

以下の意見を述べる。

台風12号・21号の被害対応、近年の猛暑への対策、早期の対応を歓迎する。工事は、議会の意見を尊重し、地元企業優先を重視した事業発注を心掛けること。第2療育センター整備費を歓迎するとともに、5歳児健診の結

果報告を受け取る側に寄り添って丁寧に行うこと。本市の正規職員給与は県下一番に高い給与水準だが、非正規(臨時)職員の時間単価は非常に低く、賃金体系を正規職員と同様の県下一高い水準に見直すよう提案する。正規市職員は、給与水準に見合う市民サービスを心掛けること。市長は、生活保護基準を市民の生活を守る立場から、2級地-1に改善するよう国に進言すること。